

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成 29 年度採択）

中間評価（案）（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評 価
29-1	自動運転と道の駅を活用した生産空間を支える新たな道路交通施策に関する研究開発	室蘭工業大学 准教授 有村 幹治	C
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>北海道の農林水産業・観光等を担う「生産空間」では、人口減少によって公共交通や物流の維持が著しく困難化している。本研究は、「生産空間」に住み続けられる道路交通環境を目指し、自動運転や道の駅の活用の実装を含む道路交通施策のあり方について研究開発を行うことで、同様の問題に苦しむ全国他地域への貢献を目指す。</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <p>「新たな道路交通施策」の提案に向けて、評価モデルを構築し、また、市民意見を収集するなどの成果をあげている。しかし、自動運転と道の駅の「両方」を組み込んだ「新たな道路交通施策」の提案内容が曖昧で、それをどのように評価しようとしているのかも明確でないなど課題が多い。このことから、研究計画を修正の上、推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;修正内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自動運転と道の駅を組み込んだ「新たな道路交通施策」の姿を明確にすること。ここでは、自動運転および道の駅と「新たな道路交通施策」との関連性を明確にすること。</li> <li>2. 多くの研究課題を同時並行で実施するのではなく、研究課題を絞り、自動運転および道の駅と「新たな道路交通施策」を中心に据えた研究計画とすること。「オーナーカーへの自動運転システム導入評価」などは、本研究の当初目標との関係性が不明確であり、必ずしも必要ではない。</li> </ol>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 36 回新道路技術会議において審議したものである。